

『同志社国文学』分類総目録

凡 例

一、本目録は『同志社国文学』第一号から第三十号までに掲載された論文、資料その他を、その内容に従って分類・排列したものである。

二、分類は次のようにし、各分類内の排列は便宜にしたがった。

。論文

。資料、翻刻

。「研究ノート」、「視点」

。会員著書紹介、書評、その他

ただし会則・彙報・編集後記は省略した。

三、目録は題目、執筆者名、掲載号数、開始頁、終了頁の順に記載した。

ただし、横書き原稿の場合も、開始頁、終了頁は通し頁数とした。

四、題目などの表記は各記事のはじめにおかれたものを採った。

一、論 文

【古代前期】

阿治志貴高日子根神の神婚説話	原田 敦子	4	20	33
古事記におけるワニ氏の伝承——日子国夫玖の出陣——	黒沢 幸三	10	1	11
大山守と宇遅能和紀郎子	黒沢 幸三	11	1	12
「天の真名井」の伝承と忌部氏	西原 啓子	12	1	15
日下部吉士の伝承——押木珠纒をめぐる——	小妻 裕子	13	1	13
挽歌の成立と展開——寿歌・相聞歌との間——	駒木 敏	4	1	19
人麿宮廷挽歌の位置と方法——日並・高市両挽歌をめぐる——	駒木 敏	5	1	22
通いの歌の一樣——方葉集卷十一・二四二五の歌私解——	坂本 信幸	8	1	11

人麻呂作献皇歌における枕詞

言孝げと言忌み——万葉集・巽歌離別歌二、三の解釈をめぐって——

『万葉開眼』(上)(下)をめぐって

「童話」の様式

枕詞と地名の始源——主として『風土記』について——

モノ・ガタリ 伝承史的方法論序説

モノ・ガタリ 構造定型

わらべ唄の発想と表現

【古代後期】

霊異記説話の成立事情

霊異記における類話の考察

霊異記の道場法師系説話について

霊異記説話の性格——民話性をめぐって——

霊異記の殺牛祭神系説話——檀譽嶋の話を中心に——

霊異記における観音信仰説話

説話と事夷——霊異記下の卅五縁をめぐって——

『霊異記』下巻六縁と『三宅絵』及び『今昔』

日本霊異記の聖——山野に籠るもの——

藤壺宮出家とその意味

「六条御息所」

紫式部の意識基体

「源氏物語」螢巻物語論——評価基準の再検討——

紫上創造の意味

宇治の大君——男性拒否の心情について——

紫式部の表現——宣孝の死を契機に——

源氏物語における「浅芽」と「紫草」

『源氏物語』の夢と方法

源氏物語作中和歌の一機能——須磨卷「八百よろづ神の歌」をめぐって——

かいま見とゆかり——源氏物語の一視点——

今井 昌子 8 12 24

駒木 敏 11 13 23

阪下 圭八 14 4 9

今井 昌子 26 13 23

駒木 敏 26 1 12

廣川 勝美 17 36 52

廣川 勝美 18 2 36

今井 昌子 20 37 55

黒沢 幸三 2 1 13

黒沢 幸三 5 23 35

黒沢 幸三 7 1 12

駒木 敏 8 25 37

黒沢 幸三 9 1 13

寺川真知夫 9 26 40

今井 昌子 12 16 29

廣川 勝美 2 14 29

代田 早苗 3 1 17

南波 浩 5 36 54

廣川 勝美 5 56 72

勝矢 啓子 5 73 88

高良 瞳 7 13 27

廣田 収 9 56 66

菅野美恵子 13 14 27

川本 真貴 13 28 35

広田 収 18 23 33

橋本 昌代 18 44 53

紅梅・竹河巻と橋姫物語論 小島 繁一 18 68 80

源氏物語 交情の時空とその変容——やつし・まどひ・あけぐれ—— 小島 繁一 21 1 14

『源氏物語』にみる物語論理——女三宮降嫁をめぐって—— 松田 薫 21 15 32

『源氏物語』幻巻における「大空を」の歌について——「まほろし」を中心に—— 橋本 昌代 21 33 43

源氏物語の独詠歌 試論——光源氏を中心として—— 久保田孝夫 22 14 22

源氏物語 禁忌侵犯の回避とその表現——「あはれとだにのたまはせよ」をめぐって—— 小島 繁一 22 23 33

「いづれの御時にか」と光源氏の物語り 広田 収 27 1 14

源氏物語テキストの編集句——鍵語としての「ためし」—— 小島 繁一 27 15 26

源氏物語の「かの」致——源氏物語テキストの編集句—— 広岡 曜子 27 27 37

『源氏物語』にみる「物語の論理」——女三宮造形の論理をめぐって—— 松田 薫 28 1 13

「紫式部日記」の方法と浄土教思想・試論 広川 勝美 4 34 48

紫式部日記の消息文 原田 敦子 5 89 103

紫式部日記における歌の場面に ついて 原田 敦子 8 38 51

後宮生活秘録と自己省察と——紫式部日記における消息文の意義—— 原田 敦子 10 12 25

紫式部集の成立——その構造に関する考察を中心として—— 菅野美恵子 9 41 55

若き日のかたみ——紫式部集の一視点—— 原田 敦子 11 36 46

紫式部集と紫式部日記——成立からみた関係—— 上田 記子 11 47 59

紫式部集における恋歌と哀傷歌 菅野美恵子 12 30 43

越前守藤原為時の補任 久保田孝夫 16 37 47

紫式部越前への旅——紫式部集をめぐって—— 久保田孝夫 18 54 67

将門記の構想 柳田洋一郎 16 48 57

将門記の本文叙述の構造 柳田洋一郎 17 90 101

今昔物語集の山蔭中納言説話の形成と影響 星田 公一 9 67 79

古今和歌集四季歌の構成法——「みる」を中心に——

橋本 昌代 16 13 24

大斎院御集攷——その配列構成をめぐって——中 周子 14 80 90

平安中期女流私歌集の共通項——私的世界の対象化と認識——

広田 収 15 1 14

『思女集』論——もの思ふ女の独詠——

広岡 曜子 18 81 92

井手の小町伝説——井手寺別当の妻をめぐって——

明川 忠夫 16 25 36

巫女「小町」覚書

明川 忠夫 18 37 43

小町薬師の靈驗伝承

明川 忠夫 20 15 26

「神と遁世・往生活」

小関真理子 17 113 120

伝承研究におけるテクストの性格

広田 収 20 1 14

助字「所謂」の語性——古代説話の機制——谷口 孝介 20 24 36

【中 世】

「平家物語」と「能」

黒井 陸郎 1 3 16

平家物語における「語り」試論——靈驗譚・前兆をめぐって——

平家物語の因果観的構想——寛一本の評価をめぐって——

生形 貴重 9 80 92

『平家物語』合戦考——頼朝拳兵譚・一谷の合戦 延慶本・寛一本をめぐって——

佐伯 真一 12 44 54

鬼界島流人譚の成立——俊寛有王説をめぐって——

生形 貴重 13 36 48

平家物語構想論の可能性

谷口 広之 15 15 27

説話伝承と平家物語の構想——鬼界島流人譚をめぐって——

佐伯 真一 17 67 78

頼政拳兵譚の構想——その軍語りをめぐって——

谷口 広之 17 79 89

橋合戦の伝承構造——渡辺党と軍語り——

谷口 広之 26 37 47

義仲の位相——「猫間」を中心に——

谷口 広之 29 1 11

『平家物語』における清盛の座

柳田洋一郎 29 12 21

延慶本平家物語における編集の方法——縁起文引用をめぐって——

谷村 茂 29 22 33

義経記の名のり——崇りなす供儀——

岩名 紀彦 29 34 45

『太平記鈔』について——『太平記』研究史の一章——

柳田洋一郎 26 48 59

『太平記理尺鈔』のことなど——『太平記』研究史の一章——
加美 宏 29 46 60

説経「しんとく丸」の構造 *
生井 武世 17 102 112
係累の語の形成——説経『さんせう大夫』試論——
生井 武世 22 1 13

山蔭中納言説話の成立——『長谷寺観音験記』の場合——
星田 公一 11 60 74

説経の女性像——乙姫・照手を中心に——
山崎 陸也 25 15 24

ハナンの粹——その組織法と現実の世界との関係をめぐって——
柳田洋一郎 20 27 36

【近 世】

『日本永代蔵』の思想と表現 小森 啓助 1 43 57

『西鶴諸国咄』の性格 小森 啓助 3 18 34

『徒然草』にみる芸能記事——特に音楽に関する兼好の耳と心——
山内 潤三 17 16 35

『好色五人女』の出発点——『宛久一世の物語』との関連を主に——
小森 啓助 4 49 65

『好色一代男』——代記的性格—— 小森 啓助 9 93 113

統古今集の基礎的研究 * 谷山 悦子 1 17 42

『好色五人女』の終着点 * 小森 啓助 10 26 37

能『砧』の修辞と構想——故事引用の方法及び「女のドラマ」としての
視点—— 稲田 秀雄 25 1 14

近松の始発——『曾根崎心中』の成立—— 生井 武世 9 114 125

The Synthesis of Yūgen and Monomane in the No Aesthetic of
Zeami——The Growth of Yūgen's Third Dimension——
Shelley Fenko 25 114 101

『雪女五枚羽子板』の成立について——二世三右衛門の芸風とその追善
を中心に—— 山田 和人 15 28 45

小名狂言におけるへとりなしの方法 稲田 秀雄 28 14 27

『薩摩歌』論——『丹波与作手綱帯』との関係をめぐって——
山田 和人 15 28 45

『傾城吉岡染』の方法——松本治太夫正本『石川五右衛門』との比較を中 心に——	山田 和人	19	23	40
『出世景清』における遊女の発見	鈴木 一夫	25	25	35
『曾根崎心中』の方法——女のドラマの発見——	向井 芳樹	25	36	46
『心中二枚絵草紙』の方法——「女のドラマ」の展開——	小川 嘉昭	25	47	58

享保期近松時代浄瑠璃の方法——『関八州鬻馬』をめぐる——	田中 馨	25	59	71
近松墳墓考——広濟寺本墓説——	向井 芳樹	30	1	10

『菊花の約』考	李 国勝	28	28	40
---------	------	----	----	----

【近・現代】				
『其面影』論——二十年後の内海文三——	児島 伸治	10	50	64
『人生相渉論争』をめぐる二、三の問題	水上 勲	7	64	74

『にぎりえ』と小町説話	堀部 功夫	13	49	61
-------------	-------	----	----	----

鏡花作品の表現構造と謡曲——『売色鴨南蛮』の場合——	田中 励儀	12	98	110
----------------------------	-------	----	----	-----

鏡花「雪柳」考——一本松の形象をめぐる——	田中 励儀	16	58	70
-----------------------	-------	----	----	----

鏡花「菓草取」覚書	田中 励儀	23	1	13
-----------	-------	----	---	----

法藏院時代の漱石私註	玉井 敬之	7	28	41
『それから』論	深江 浩	7	42	63
『道草』論	于 耀明	27	45	56

独歩における浪漫主義——その二元的構造について——	水上 勲	14	68	79
---------------------------	------	----	----	----

『破戒』をめぐる	八木 良夫	1	58	71
島崎藤村ノート——『夜明け前』第一部第一章の改稿——	鈴木 昭一	20	58	71

『カインの末裔』成立過程試論	内田 満	2	30	48
----------------	------	---	----	----

有島武郎の創作方法（上）——『宣言』から『迷路』へ——				
-----------------------------	--	--	--	--

有島武郎の創作方法(下) — 『石にひしがれた雑草』から『或る女』
 内田 満 10 65 85

〱 —
 内田 満 11 75 97

『運命の訴へ』覚え書 — 有島武郎・八木末〱の周辺 —
 内田 満 12 70 89

「親子」覚書
 内田 満 23 39 49

谷崎潤一郎「少将滋幹の母」論 — 新聞連載における小説形式 —
 風呂本 薫 28 51 61

「犬」を読むために * * *
 堀部 功夫 21 46 56

「銀の匙」本文調査 * * *
 堀部 功夫 23 14 38

中野重治論ノート — 〱村の家〱 —
 岸 健治 20 72 89

中野重治論ノート 二 — 〱歌のわかれ〱 — * * *
 岸 健治 21 57 75

中野重治論ノート 三 — 〱むらさき〱 —
 岸 健治 23 74 88

横光利一「上海」 — 吉行エイスケとの比較において —
 小川 直美 28 41 50

阿部知二小論 — 『冬の宿』を中心に — * * *
 水上 勲 23 50 60

ある近代文学研究者の軌跡 — 羽仁新五の仕事について — * * *
 玉井 敬之 19 1 22

「戦前・戦中の佐多稲子における創作方法の一側面」 * * *
 北川 秋雄 23 61 73

戦時下の文学〱その一〱 * * *
 安永 武人 1 72 93

戦時下の文学〱その二〱 * * *
 安永 武人 2 49 73

戦時下の文学〱その三〱 * * *
 安永 武人 3 56 90

戦時下の文学〱その四〱 * * *
 安永 武人 4 66 96

戦時下の文学〱その五〱 * * *
 安永 武人 5 104 129

戦時下の文学〱その六〱 * * *
 安永 武人 8 52 81

戦時下の文学〱その七〱 * * *
 安永 武人 12 111 140

戦時下の文学〱その八〱 * * *
 安永 武人 14 10 43

椎名麟三『美しい女』論 — その主題と構造 — * * *
 上田 正 22 37 50

写生説成立以前の子規

水上 勲 12 55 69

『若菜集』の成立

河野 仁昭 13 62 76

「真下飛泉伝」の試み——若き日の飛泉——宮本 正章 17 124 144

「真下飛泉伝」の試み——「戦友」成立を中心として——

宮本 正章 21 76 91

語にあらわれた発想の相違による和習——上代における「御」という字の敬語接頭辞的用法について——

吉野 政治 15 58 73

伊東静雄『詩集夏花』の位相

河野 仁昭 16 1 12

重複形容詞と重複形容動詞

河野 仁昭 14 44 64

『同志社文学』（第二次）をめぐって

河野 仁昭 14 44 64

敬語接頭辞「み」の成立・試論——濱田敦氏続貂——

紙谷 栄治 24 28 39

【漢文学】

「伯夷列伝」の構成

波多野鹿之助 3 118 129

反復継続と漸進の相——シテイクとシテクルの考察——

吉野 政治 24 65 73

【国語学】

バ行・マ行の「よみくせ」——発音から仮名づかいの問題へ——

遠藤 邦基 24 17 27

綺麗 うつくし きよし ——漢語と和語——

浅野 敏彦 8 82 94

語彙論から見た形容詞

玉村 文郎 10 104 87

和語の非連続規則と連濁傾向——『日葡辞書』と『和英語林集成』から

戸田 綾子 30 96 80

現代形容語彙の構造——「分類語彙表」の「相の類」の分析——

玉村 文郎 11 124 109

漢語の類義語——奇怪・奇特・奇異・不思議——

平安時代の漢語語彙について
 浅野 敏彦 12 141 154
 浅野 敏彦 13 77 85

平安時代仮名文学作品にみえる漢語動詞の一考察

浅野 敏彦 19 43 54
 蜂矢 真郷 19 55 67

重複形容詞の構成
 「好く」「好」「好む」「好」から見た長明と兼好——類義語などで使用

する際の「価値評価」意識に基づきながら——

堀川 善正 24 1 16
 蜂矢 真郷 24 40 52

重複形容詞と重複形容動詞
 漢語の変容——領掌の場合——

浅野 敏彦 24 53 64
 玉村 文郎 24 79 74

音象徴語の語形(その1)

論説における近代口語文の変遷
 松下 貞三 1 94 111
 近代における児童の文章の変遷
 松下 貞三 3 91 117

【国語教育】

〔国語教育研究——資料と意見——〕

国語教育と「期待される人間像」覚書——現行教科書の問題点を中心に——
 徳永光次郎 2 74 96

〔国語教育研究——資料と意見——〕

反動化する国語教育の実態——小学校学習指導要領と教科書検定の問題
 点を中心に——
 徳永光次郎 4 97 128

実践報告

論理的な思考力・認識力の育成をめざして——坂口安吾『ラムネ氏のこと』の実践から——
 徳永光次郎 12 155 179

二、資料・翻刻

宇田川文海著作年表
 堀部 功夫 5 141 167
 宇田川文海伝の筋書
 堀部 功夫 7 75 98

宇田川文海・補遺

堀部 功夫 9 141 161
 「道薫坊伝記」——淡路人形の始祖伝承——
 山田 和人 13 93 101

泉鏡花参考文献目録(雑誌の部)

田中 励儀 13 102 136
 奥村家蔵『波多野流詠曲師傳口訣』解題・翻刻
 生形 貴重 17 53 66

洛東遺芳館本『源平軍論』

山田 和人 25 76 96
 洛東遺芳館所蔵 井上市太夫正本『弘法大師出世之巻』

山田 和人 30 39 59

三、研究ノート・視点

△研究ノート▽

中臣宅守流刑の原因について

土橋 寛 2 97 102

「伊豆のお山」の歌垣

土橋 寛 2 103 106

ヤマトタケル伝承覚書

黒沢 幸三 4 129 133

今日における文学の批評・研究の理論的課題

深江 浩 5 130 140

紫式部集110番

「たえぬちきりし世々にあせすは」をめぐって

菅野美恵子 8 95 100

「こゝろ試論」

内多 文子 8 101 112

「靈験譚の方法」

小関真理子 11 98 110

『源氏物語』の「行くへ知られぬ」考

塩田 和子 27 38 44

△視点▽

配所の月

小森 啓助 12 90 92

淡路人形浄りのゆくえ

向井 芳樹 13 86 88

或る感想

玉井 敬之 14 65 67

小町伝説の母胎——古今集——

明川 忠夫 14 91 101

「宝永期近松浄瑠璃について——その特質を中心に——」

山田 和人 17 121 123

奄美の「歌掛き」

土橋 寛 18 34 36

『曾根崎心中』「観音めぐり」の復活

向井 芳樹 19 41 42

伝承論への新たな試み——「説話・伝承学会」設立にむけて——

谷口 広之 20 56 57

キカイと言語

玉村 文郎 21 44 45

「序詞」二二〇

駒木 敏 22 34 36

四、紹介・書評・その他

会員著書紹介

土橋 寛著『古代歌謡全注釈日本書紀編』

駒木 敏 12 93 94

黒沢幸三著『日本古代の伝承文学の研究』

寺川真知夫 12 94 96

南波 浩著『紫式部集の研究 校異篇・伝本研究篇』

『紫式部集 付 大式三位集・藤原惟規集』

小島 繁一 12 96 97

玉井敬之著『夏目漱石論』

田中 励儀 12 97 97

向井芳樹著『近松の方法』

山田 和人 13 89 90

広川勝美編著『神話・禁忌・漂泊』

物語と説話の世界 谷口 広之 13 90 91

広川勝美編『土くれの語り部たち』

『同志社国文学』通巻一覽

遍路と木地師と地芝居と

刷年月日

発行日

付総頁

松下貞三著『漢語「愛」とその複合語・思想から見た国語史』

1966・3・10
3・15

南波 浩編『王朝物語とその周辺』

第1号 67・3・10
第2号 67・3・10
第3号 68・3・1
第4号 69・3・1

南波 浩編『王朝物語とその周辺』

第5号 71・3・1
第6号 71・3・1
第7号 72・2・1
第8号 73・2・1
第9号 74・2・1
第10号 75・2・1
第11号 76・2・1
第12号 77・3・1
第13号 78・3・1
第14号 79・3・1
第15号 80・1・15
第16号 80・3・20
第17号 81・3・20
第18号 81・3・20
第19号 81・10・20

安永武人著『戦時下の作家と作品』

有馬 輝臣 25
72・2・1
73・2・1
74・2・1
75・2・1
76・2・1
77・3・1
78・3・1
79・3・1
80・1・15
81・3・20

安永武人著『戦時下の作家と作品』

土橋 寛 1
74・2・1
75・2・1
76・2・1
77・3・1
78・3・1
79・3・1
80・1・15
81・3・20

安永武人氏の「戦時下の文学」(一)(二)に就いて

深江 浩 4
134
144

小森さんを送る

里井 陸郎 12
92
92

土橋 寛教授を送る

南波 浩 14
1
3

里井陸郎教授の急逝を悼んで

南波 浩 17
1
3

里井陸郎先生御経歴及び御著述目録

田中 順二 17
4
5

里井陸郎君の歌

里井 のぶ 17
6
12

補遺

故里井陸郎教授追悼号

南波 浩教授を送る

南波 浩教授退職記念号

南波 浩教授を送る

南波 浩教授退職記念号

南波 浩教授を送る

南波 浩教授退職記念号

南波 浩教授を送る

南波 浩教授退職記念号

南波 浩教授を送る

南波 浩教授退職記念号

南波 浩教授を送る

南波 浩教授退職記念号

南波 浩教授を送る

南波 浩教授退職記念号

第20号	82	3	20	95
第21号	82	12	20	92
第22号	83	3	20	56
第23号	84	3	1	90
第24号	84	3	20	114
第25号	84	12	20	60
第26号	86	3	10	60
第27号	86	3	10	68
第28号	86	12	30	64
第29号	87	3	20	69
第30号	88	3	20	96

特集 軍記物語

特集 近代文学
 松下貞三教授退職記念国語学特集号
 「女のドラマ」の系譜

執筆 者 紹 介

向井 芳樹……本学教授
 加美 宏……本学教授
 大島 中正……昭和六十年本学大学院修士課程修了
 大阪成蹊女子短期大学講師
 山田 和人……本学専任講師
 戸田 綾子……昭和六十一年度本学大学院修士課程修了
 京都外国語大学講師